顕微鏡で水サンプルの分析に取り組 むベン・フラジさん(中央)。「日本の研 究室が一つ一つの研究に懸ける労力・ 集中力を学ばなければならない」と話す







(上)テクノパークで建設が進む、環境分野の高等教育機関。建設現場では、シニア海外ボランティアが設計・建設技術の支援・助言を行った (下)08年、日本の大学で学ぶ留学生と、JICAの研修で来日したテクノパークの

(http://www.iica.or.id/topics/archives/ibic/iapanese/base/topics/0

経営者の交流が実現。経営者からは、「新分野での研究成果を期待している」 などの激励が留学生に寄せられた。当時の様子はJICAのホームページ

円借款を通じて高等教育機関の 優れた研究開発に支え オテクノロジ のためチュニ 雇用の創出 転換に着 ボルジ クに対 の整 供与 ジ 分 豊富なネ 学生の受け入れは、 者の育成支援なども行 究センターだ。 アフリカ地域の 博士課程に在籍している。 てきたのが、 その中でJI 04 年

研究開発拠点となる

ル

テ

再生可能エネルギー

生のうち、 発信の拠点として活動し、 生の受け入れに中心的役割を果たし **ベン・フラジさんを含む** 筑波大学では29人の留学 筑波大学北アフ 総合学術研究と情報 クを生か 国内各大学と の設立以来、 っている。 現地研究 して推進 リカ研

などを05年

より支援してい

る。

研究施設へ

の研究器材

0)

Aはこのテク いる。

研究開発を担う人材の

若手研究者が日

本の

士課程で学ぶ留学プ た29人が日本全国11大学 現地での 口 選考を ム も

が求めら

強化と人 れて

れた知識集約型産業へ

0)

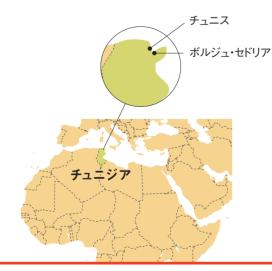
首都チュニス近郊の

留学

いくのは決してマーー゙まだ大きな差がある。マ 携センター長の安部征姓携センター長の安部征姓 特任教授は、「研究環境や器材、 伝えてきた。 レベルなどで テクノパ のは決して容易ではない でチュニジアと日本では たがある。それを埋めて でチュニジアと日本では の安部征雄・筑波大学北アフリカ・地中海連クの設立発案段階から

## 北アフリカ研究センターと チュニジアとの共同研究

筑波大学北アフリカ研究センターで は、JICAが独立行政法人科学技術 振興機構(JST)と連携して行う「地 球規模課題対応国際科学技術協 カプログラム」の環境・エネルギー分 野での研究を09年度より開始する。 礒田博子・同センター教授の主導の もと、チュニジア側研究機関との共 同研究で、産業化を視野に入れた、北 アフリカ乾燥地特有の生物資源の 有効活用に関する研究に取り組む。



での

パ

関の経営者に求め

られる視点などを

究機関での視察を通じ、

筑波大学 テクノ

や国内のさまざま

研究開発機

## 母国の発展のために日本の研究室での経験を

る指導を行ってきた。 念頭に置いたマネジメントにかかる 3年間派遣し、 尾貴広講師をJICA専門家として 行ってきた。また、 究者を数多く受け入れ、 ウ の運営管理者・研究者を対象に実 の研究戦略、 知的財産の取り扱 ウや、 テクノパ 「運営管理プ 到了? - ク運営管理研修で きた。さらに、日本 研究成果の クノ たり、 同センタ 以いなどに関す成果の技術移 技術研修を 口 - ク開設を の若手 П ジ ジ · 一分 Oエ ク 森

> を送る。 展を担 母国 って ってほし 11 とエー

究者の卵たち。 上と未来の産業発展の チュニジア の期待を一 北ア 研究開発 体となっ カギを握る研 か研究セ ベ た支援 ル 0)

促進と産業発

の研究開発の

州連合(EU)との間で貿易関税が 域を代表する成長国として北アフ どの多様な産業に恵まれ、 なる国際競争に対応し得る高度な産 08年に貿易の大半を依存する欧 するチュニジア。 食品加工、 近年、 繊維業な L

カをけん引

けている。 度の修了を目指し、環境 彼はここで、 った水資源に与える影響 汚染が地下水や河川 ン・フラジさんは言う。 2 0 1 0年 ٤

チュニジアの産業発展を担う

研究者の育成を

欧州連合(EU)との自由貿易化の波の中で、チュニジアが産業競争力の強化に乗り出している。

研究開発能力を向上させて産業力を高めるという命題を背負った研究者の卵たちが、

筑波大学北アフリカ研究センターとJICAの支援のもと、日々の研究に打ち込んでいる。

国の未来の成長に貢献したい」 成果を母国での研究開発に役立て、 る。「日本での研究 日々研究を続 と意

欲的だ。

農業、

程に在籍するファ 命環境科学研究科博士課 活動ができて 具も多く、 北アフリカ研究センタ 「チュニジアにはない器 元実した研究 

き込む。 波大学の広大なキャン が日本人学生とともに顕微鏡をの 室の一角で、チュニジア人留学生さまざまな実験器具に囲まれた研 )広大なキャンパスにある、ここは茨城県つくば市、は

∜究開発拠点の整備 口借款で支援する

07年には、筑波大学とテクノパークの共催で「バ イオテクノロジーと一村一品」をテーマとしたワー クショップを開催。250人近くの聴衆を集めた